

周南市中山間地域における集落営農法人の育成



1

地域の概要

2

周南市中山間地域

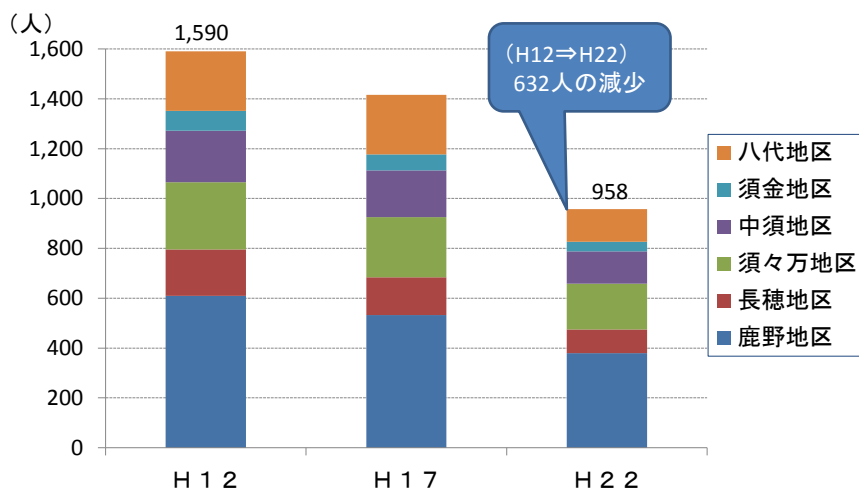
(鹿野・長穂・須々万・中須・須金・八代)



周南市中山間地域の現状と問題点

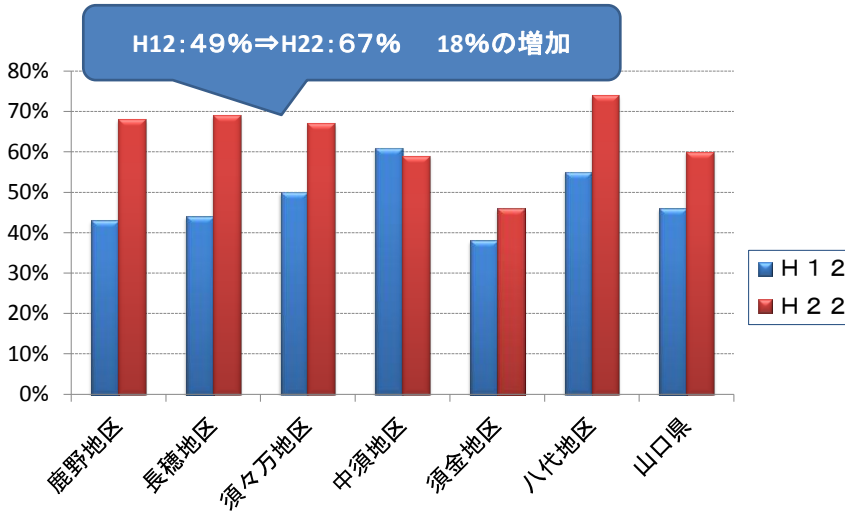
農業就業人口の推移

- ・10年間で4割弱が減少している。
- ・特に、長穂・須金の減少率は平均よりも10ポイント以上大きい。



基幹的農業従事者の70歳以上の割合

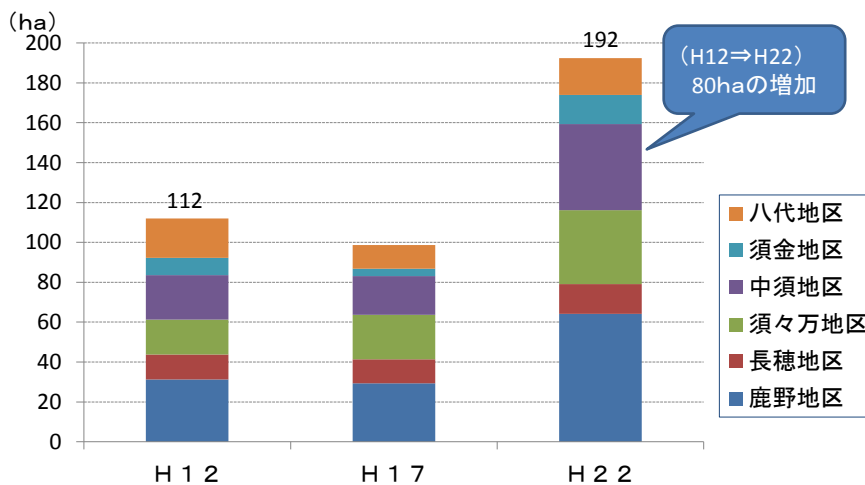
- ・10年間で高齢化が進展し、2/3が70歳以上となっている。
- ・特に、鹿野・長穂では高齢化の進展が早くなっている。(県よりも11ポイントも高い)



5

耕作放棄地面積の推移

- ・10年間で7割増加している。特に、平成17年から急激に増加している(倍増)。



6

周南市中山間地域の課題設定

耕作放棄地の拡大を防止するには…？

- ・農家減少や高齢化率が直接的な影響ではない。
- ・担い手(認定農業者＋集落営農法人)がいる地区は耕作放棄地率が低い。

地区名	耕作放棄地率	農家減少率	高齢化	認定農業者(土地利用型)	集落営農法人
八代	11%	45%	74%	6戸	1法人
長穂	15%	49%	69%	1戸	1法人
鹿野	16%	38%	68%	8戸	1法人
山口県	21%	39%	60%		
須々万	24%	32%	67%	1戸	—
中須	33%	37%	59%	1戸	—
須金	35%	53%	46%	—	—

7

周南市中山間地域の課題設定

- ・地区内の担い手の経営面積の割合(シェア)が高いと、耕作放棄地の発生は少ない。

担い手(認定農業者と集落営農法人)の経営面積状況(H22年度当初)

地区名	耕作放棄地率	認定農業者		集落営農法人		シェア
八代	11%	6戸	19.8ha	A	23.5ha	30%
長穂	15%	1戸	4.2ha	B	5.3ha	11%
鹿野	16%	8戸	48.2ha	C	47.3ha	29%
須々万	24%	1戸	5.0ha	—	—	4%
中須	33%	1戸	7.8ha	—	—	9%
須金	35%	—	—	—	—	—

※ シェア＝担い手(認定農業者＋集落営農法人)面積÷経営耕地面積×100



担い手による耕作放棄地の防止効果がある

8

担い手（認定農業者＋集落営農法人） で集落の農地を守る！

- ① 認定農業者の育成と規模拡大を支援
- ② 集落営農法人を育成し、集団で農地を守る仕組みを加速化

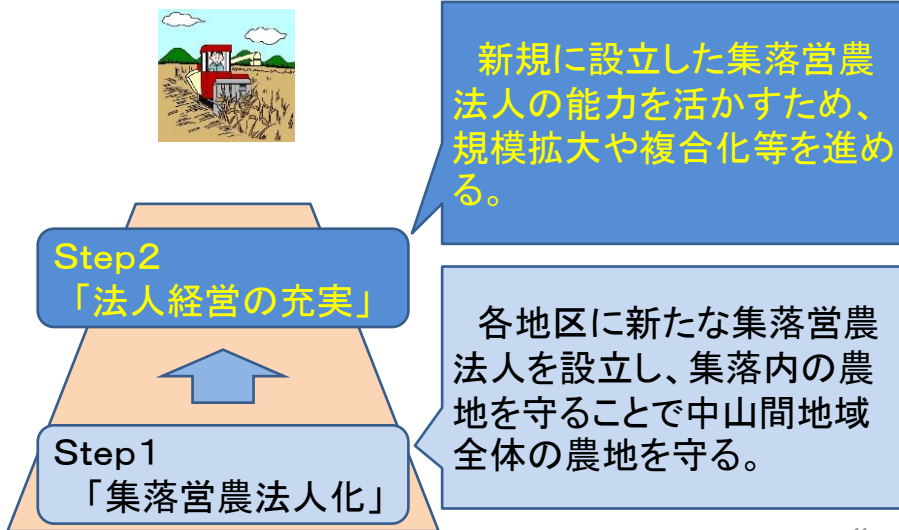


9

活動の内容

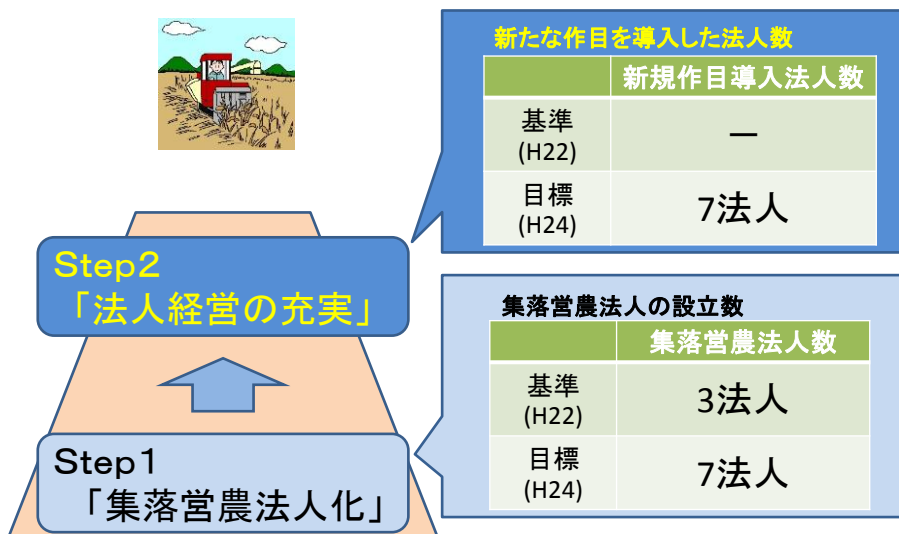
10

集落営農法人育成の考え方



11

集落営農法人育成の目標



12

Step 1 「集落営農法人化」

集落の農地を集団で守る組織の設立・育成



目的:効率的(省力的)に農業を行うために規模拡大
(利用権設定)を行える法人を育成。

13

Step1「法人化」

新たな集落営農法人

法人名	地区	法人設立	特定農業法人化
D	鹿野	H23. 1月	H24. 4月
E	鹿野	H23. 1月	H24. 4月
F	須金	H21. 5月	H24. 8月
G	須々万	H14. 8月	(H25.4月に向けて活動中)

14

法人Dでの取組

概要

- ①「地域をよくする会」等の活動から、集落営農組織育成等の気運が醸成
- ②中山間地域等直接支払制度3期対策の有効活用による、法人設立の推進(集落協定の広域化(6協定⇒1協定)と法人による農地保全)
- ③農産物加工所の有効活用を目指し、地区の加工活動のあり方についての検討を支援
- ④法人設立に向けた、具体的な運営体制や事業計画の作成を支援



設立総会

15

法人Eでの取組

概要

- ①「地域の里をまもる会」が地域ビジョンを作成
- ②地域ビジョンの実現に向けた法人設立の推進(法人設立検討会開催等、中山間地域等直接支払制度3期対策の有効活用(協定の1本化と法人による農地保全)、地区別説明会等)
- ③法人設立に向けた、具体的な運営体制や事業計画の作成を支援(発起人会)



設立総会

16

法人Fでの取組

概要

- ①株式会社が農業生産法人を設立(企業参入)
- ②平成24年から野菜(タマネギ、ニンジン、ジャガイモ)生産に向けて長穂・須金地区を中心に農地集積(利用権設定)
- ③特定農業法人化(須金地区)、単県事業(農業機械等)の導入を支援



タマネギ移植作業

17

法人Gでの取組

概要

- ①農業分野の強化(本業の土建業の発注減のため)
- ②平成23年度に単県事業で農業機械の導入を支援
- ③平成24年度から、大豆の生産開始を支援
- ④須々万地区での特定農業法人化を支援中(平成25年4月予定)



大豆生育調査

18

Step 2 「法人経営の充実」

課題① 新規法人は経営が脆弱なため、充実が必要

法人名	地区	当初面積	目標面積	進捗率
D	鹿野	2.0ha	18ha (H27)	11%
E	鹿野	6.8ha	30ha (H27)	23%
F	須金	1.8ha	6ha (H28)	30%
G	須々万	13.0ha	21ha (H27)	62%

➡ まずは、新しい法人の経営の充実

19

Step2「法人経営の充実」

規模拡大…集落内の農地を集積し規模拡大



大豆生産(法人C)



小麦生産(法人A)

➡ 栽培作物の団地化など、農地の効率的な利用が行いやすくなる。

20

規模拡大

集落営農法人	地区	当初面積	H25の面積
B	長穂	5.3ha	17.4ha
D	鹿野	2.0ha	4.0ha
E	鹿野	6.8ha	9.1ha
F	須金	1.8ha	2.0ha



役員会(法人B)



総会(法人E)

21

複合化…水稻以外の作目導入

大豆(法人G)



小麦(法人A)



野菜(法人F)



➡ 農地の利用率を高め、収益の向上。
(地元農業への貢献UP)

22


複合化

法人名	地区	これまでの栽培作目	新規導入作目	年度		
				H23	H24	H25
A	八代	水稲・大豆・野菜	小麦 キャベツ	→	→	→
B	長穂	水稲	大豆	→	→	→
D	鹿野	水稲	野菜	→	→	→
E	鹿野	水稲	大豆 ソバ	→	→	→
F	須金	(野菜)	野菜		→	→
G	須々万	水稲・ソバ・作業受託	大豆		→	→

23

法人間連携…各法人の能力を活かす仕組み




共通認識を図る。
機械装備の適正化や有効活用。
複数の法人による産地化(大豆)。

24

法人間連携

	地区	参加法人	主な内容
鹿野地区 農業法人 連絡会議	鹿野	C	・利用権設定 ・産地化 ・機械等活用
		D	
		E	
周南市北 部大豆生 産連携	鹿野・ 長穂	B	・大豆収穫作業
		C	
		E	
		B	・大豆防除作業 ・大豆中耕培土作業
		E	
		E	

25

Step 3 「法人体制の強化」

課題② 法人になってもメンバーも高齢化

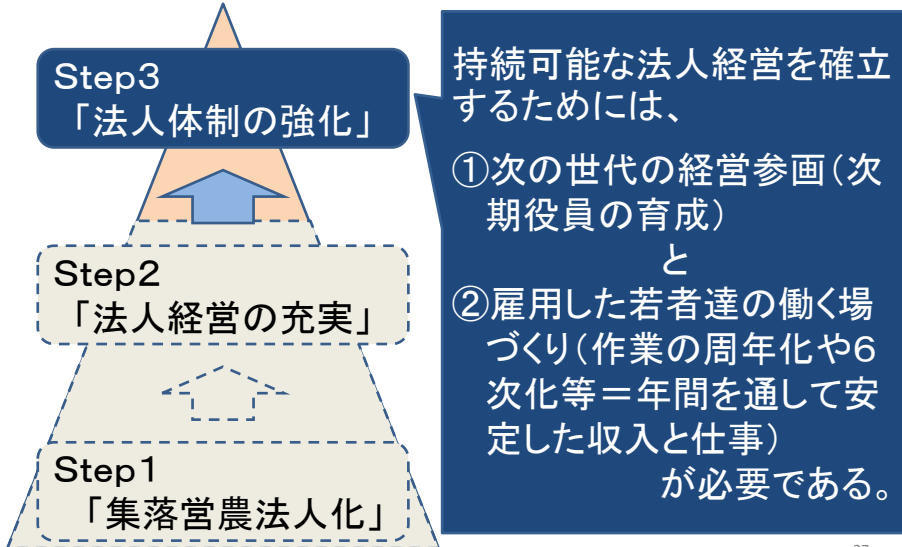
法人名	地区	役員平均年齢	備考(設立)
B	長穂	69歳	H21. 12月
D	鹿野	70歳	H23. 1月
E	鹿野	66歳	H23. 1月
A	八代	67歳	※H22当初



安定的に法人経営を続けるために体制強化

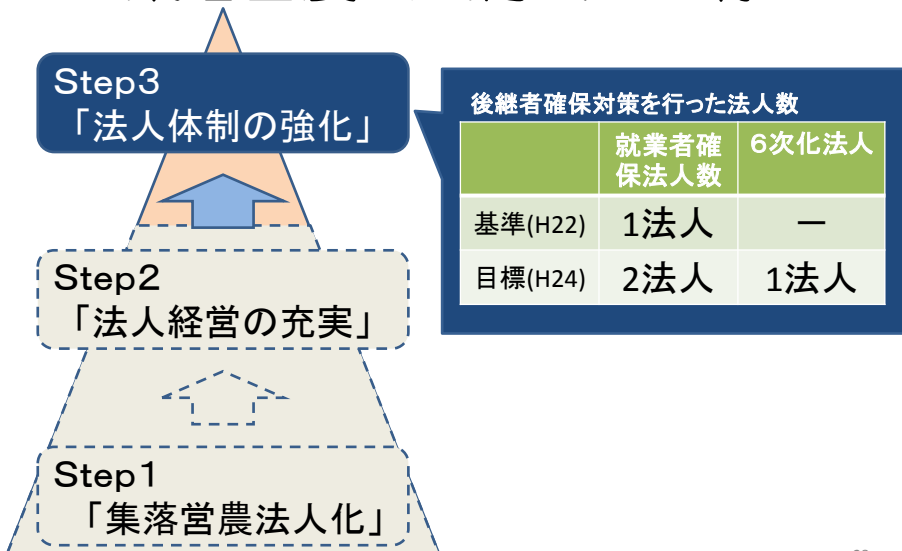
26

集落営農法人育成の考え方



27

集落営農法人育成の目標



28

法人Cでの取組

① 次期役員育成

- ・中長期目標の策定支援(H25年2～3月実施)

② 働く場づくり

- ・平成23年度に単県事業で大豆生産機械の導入を支援
- ・生産資材低減の支援(ジャガイモ前作カバークロープ実証ほ)
- ・大豆の需要拡大(学校給食・県内業者)
- ・結びつき米の需要拡大(量販店)



カバークロープ(クロタラリア)

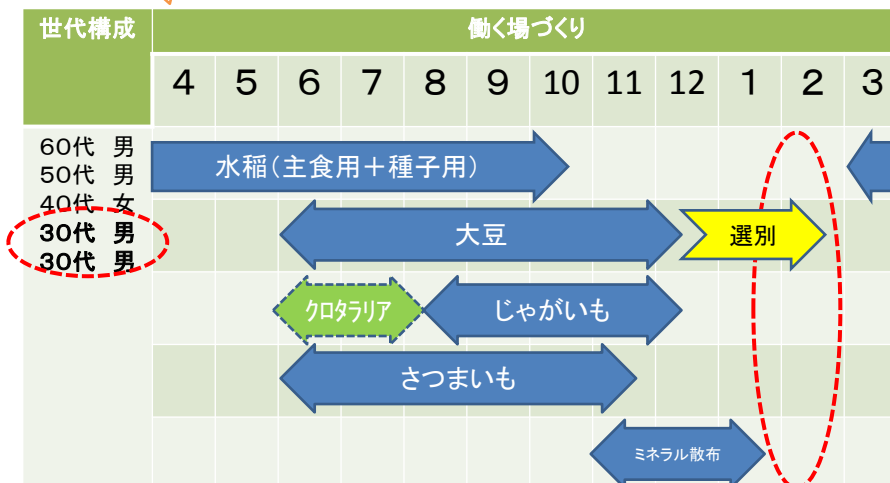


ジャガイモ定植

29

経営面積
50ha

法人C



30

法人Aでの取組

① 次期役員育成

- ・後継者確保対策の支援
(研修、農の雇用事業等)

② 働く場づくり

- ・平成23年度に単県事業で小麦生産機械の導入を支援
- ・大豆の需要拡大
(県内業者(しょう油、味噌))
- ・新規導入作物(小麦、キャベツ)の栽培指導(実証ほ)

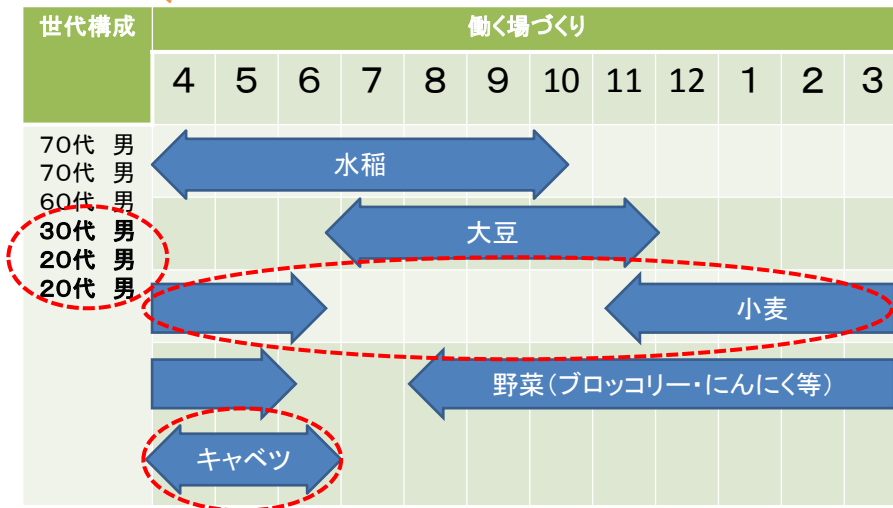


新規就農者辞令交付式

31

経営面積
21ha

法人A



32

法人D農産加工部での取組

① 次期役員育成

- ・農産加工部運営体制の確立を支援
(会計研修会、定例会等)



会計研修会

② 働く場づくり

- ・6次化に向けた支援

加工原料用野菜栽培の提案
(白菜・ダイコン等)
新商品開発と販路開拓の支援
(キムチ、ケーキ等)



キムチ加工

33

経営面積
4.0ha

法人D農産加工部

世代構成	働く場づくり											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
70代 女												
70代 女												
70代 女												
70代 女												
70代 女												
60代 女												
60代 女												
60代 女												
50代 女												
50代 女												
70代 男												
60代 男												
60代 男												
60代 男												

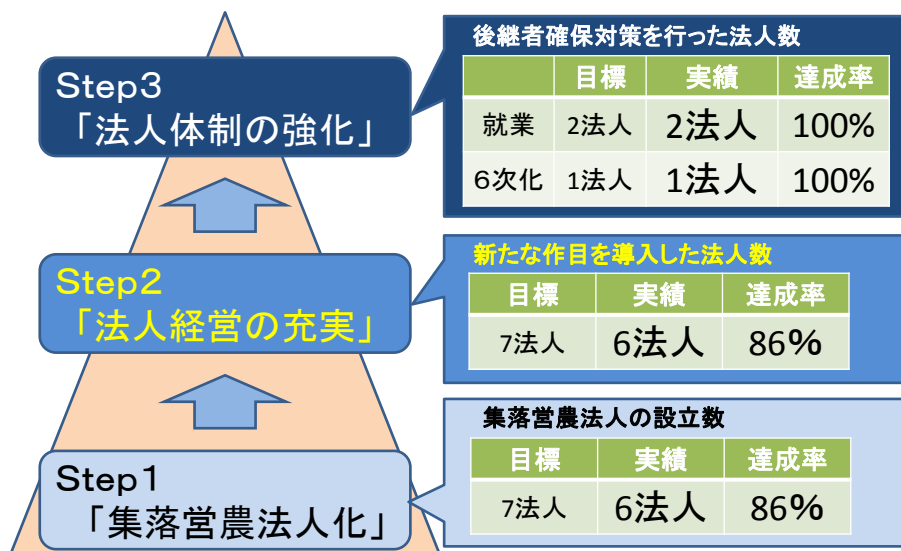
Diagram annotations: A large yellow double-headed arrow labeled '農産加工' spans from column 4 to column 12, encompassing rows 70代女 to 60代女. A blue double-headed arrow labeled '野菜(白菜)' spans from column 7 to column 10, encompassing rows 70代男 to 60代男. A blue double-headed arrow labeled '水稲' spans from column 4 to column 10, encompassing rows 60代男 to 60代男.

34

活動の成果

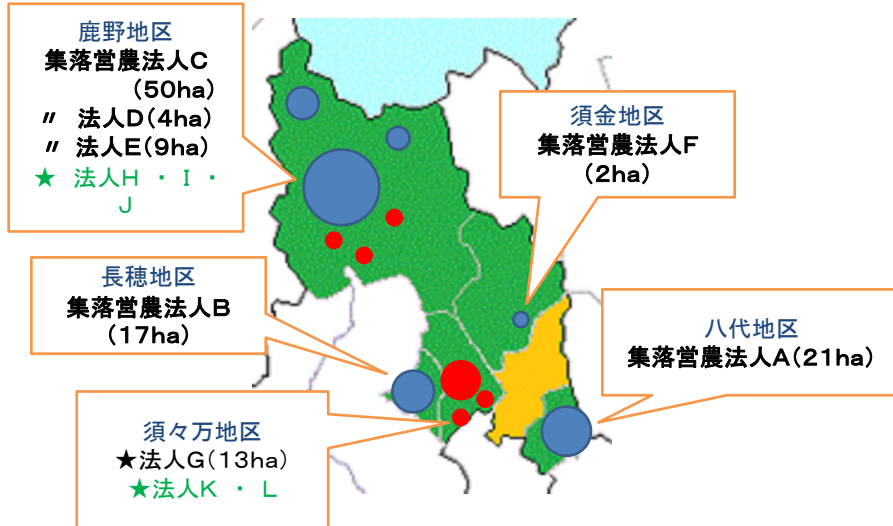
35

集落営農法人育成の成果



36

「各地区での集落営農法人等による 農地維持」



37

今後の取組 (残された課題)

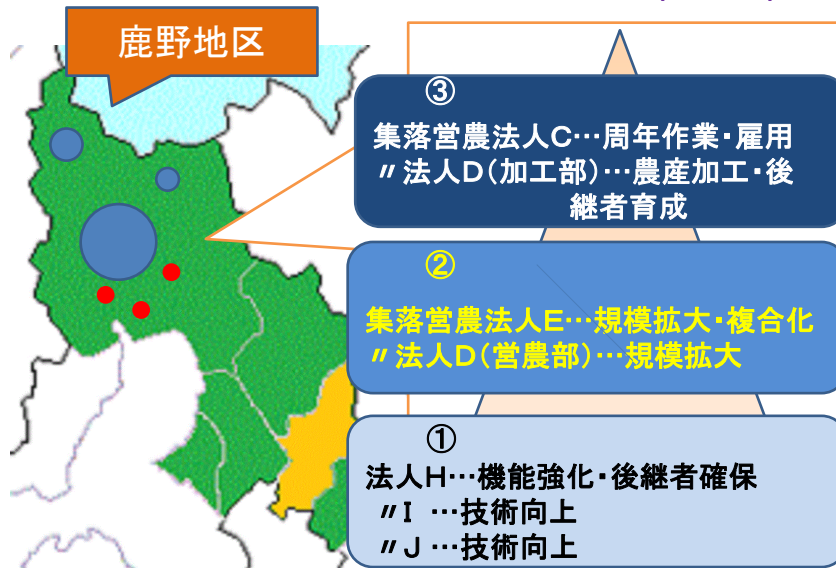
38

今後の取組① 「法人空白地区での法人設立」

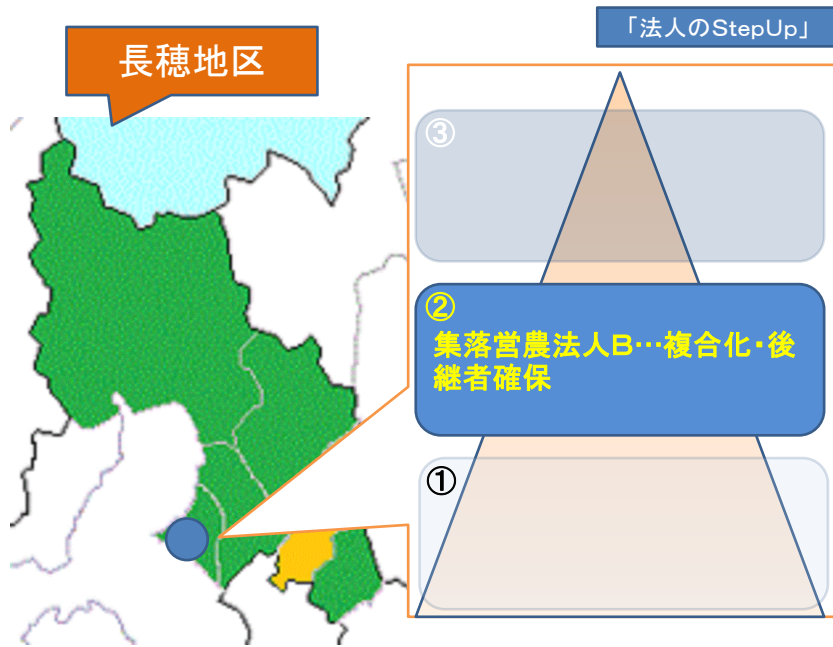


39

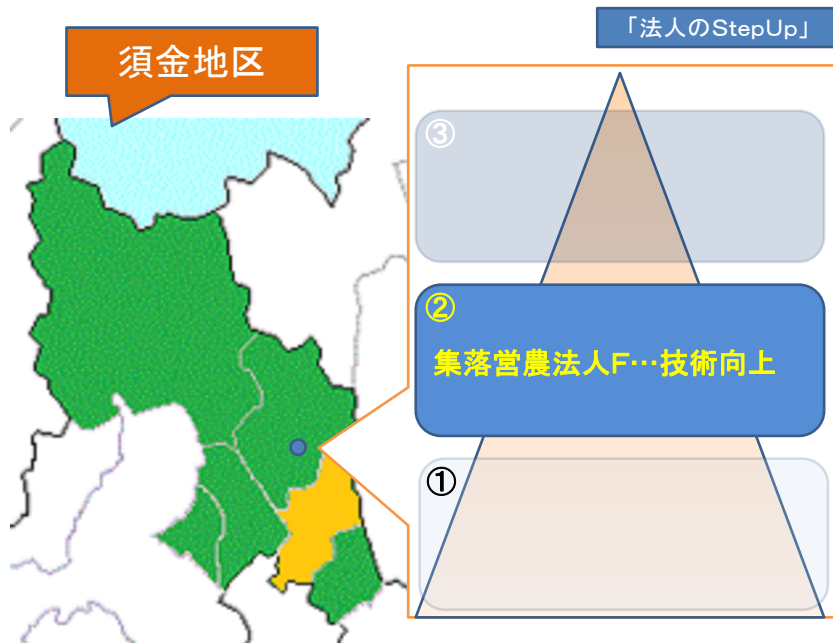
今後の取組②「法人のStep Up」



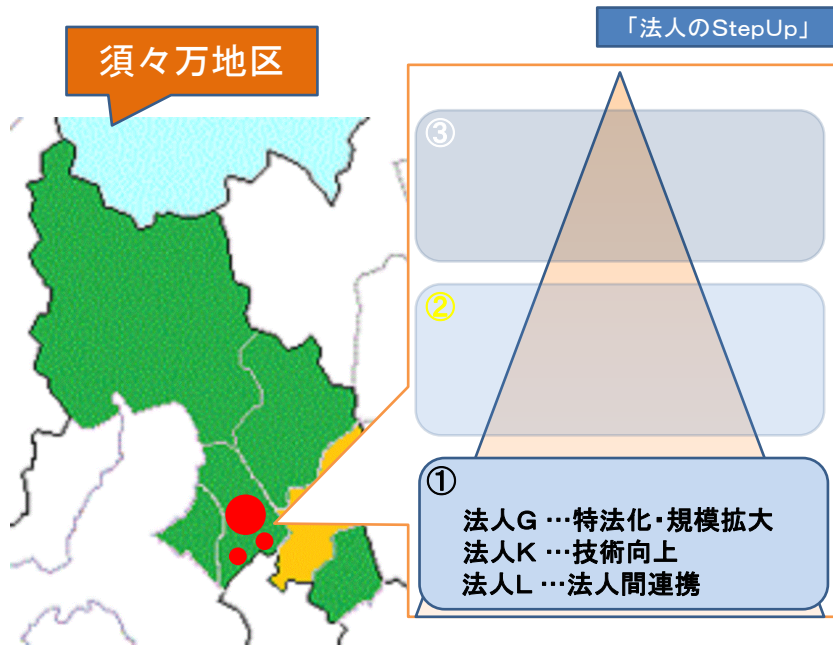
40



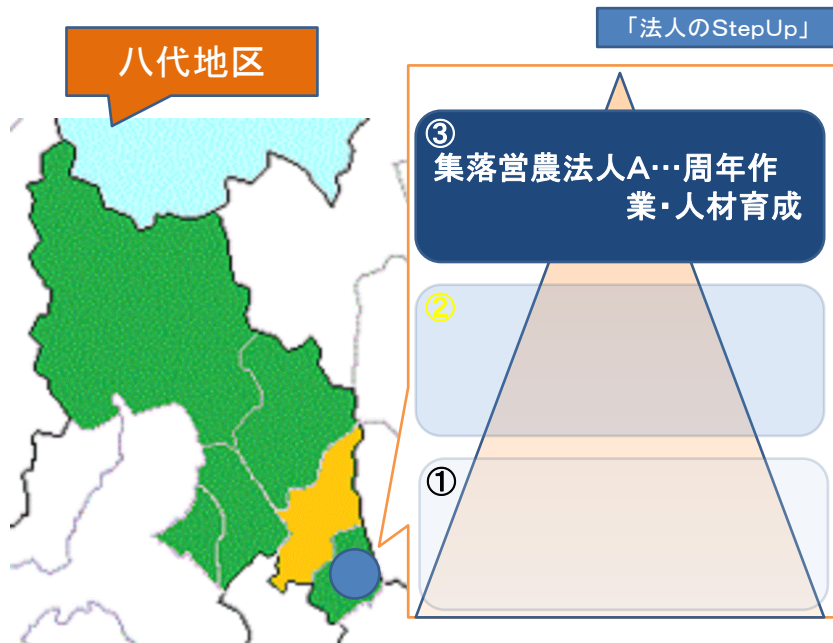
41



42



43



44

農林事務所の提案

45

提案「法人ネットワークによる 中山間地域農業の多面的な展開」

【集落営農法人】

○法人ネットワーク

- 技術の共有化(多方面からの情報収集)
- 先輩法人からの支援(新規法人の効率的なStepUp)
- 異業種交流(新たな部門展開…多角化や複合化)

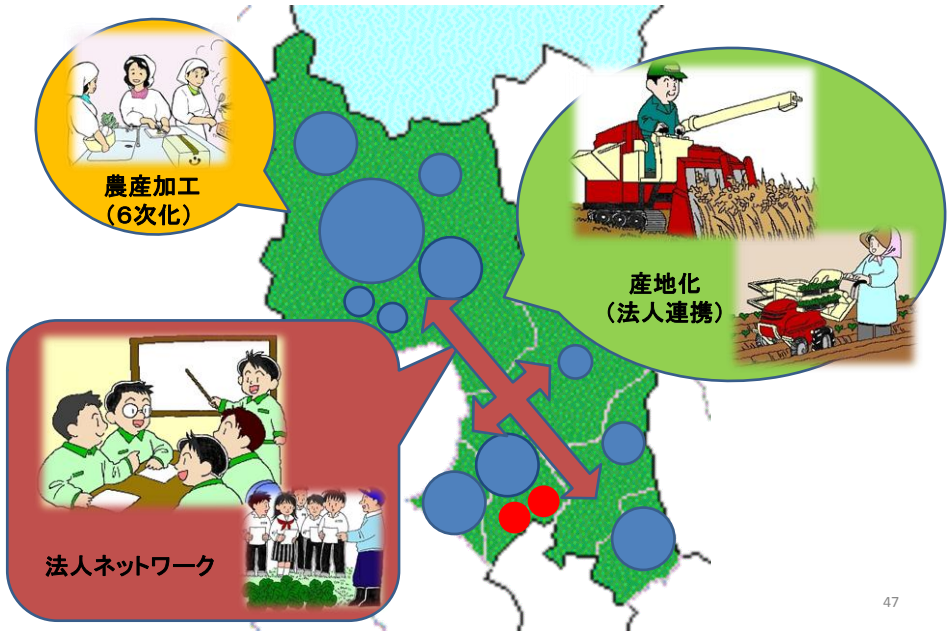


○多面的な展開

- 法人連携による産地化(大口需要に応えうる)
- 農産加工等の多角化(付加価値による収益向上)

46

周南地域集落営農法人
等連絡協議会の活動
(事務局:JA周南)



終

ご清聴ありがとうございました。

